

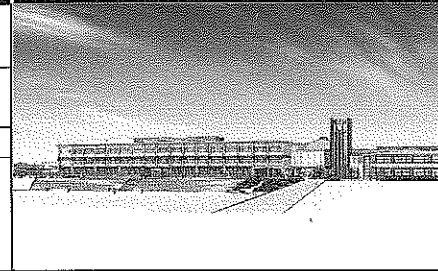
この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) (使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpl&be(v.2.0))

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	県立米子東高等学校		階数	地上2F
建設地	鳥取県米子市勝田町1番地		構造	RC造
用途地域	第一種住居地域		平均居住人員	1,142 人
気候区分			年間使用時間	3,700 時間/年
建物用途	学校		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月	0.0	評価の実施日	2014年4月3日
敷地面積	71,055 m ²		作成者	仲佐 仁志
建築面積	487 m ²		確認日	2014年4月10日
延床面積	823 m ²		確認者	武蔵 延雄



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	73%
③上記+②以外の	73%
④上記+	73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>110年余りの歴史と伝統のある学校。これらの継承とこれからの学校教育に求められる機能の充実。そして、この地域の環境との調和を基本理念として計画した。安心で安全な施設の中で、将来を見据えた学習環境を実現するとともに、緑立つカラ受け継がれてきた米東らしさにあふれたキャンパスの創造を行う。</p>		<p>既存改修建物との連携を重視しバリアフリーの渡廊下で接続した。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>ラーニングストリートを中心に学生らが集い、活発に交流。図書館が1階の中心、教室が2階の中心自ら調べ、自ら学び自らが答を導く学校環境作り。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>全ての人が利用できる、バリアフリー・ユニバーサルデザインの施設</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>西校舎と新築管理・教室棟の間に中庭を設け、学生のくつろぎの場とした。県産木材をできるだけ使用した。電気錠を設け防犯に配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>屋上に熱交換塗装を施し真夏の熱負荷を減少させ、CO₂削減にも寄与した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>リサイクル材を出来る限り採用した。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>空調機器選定はヒートポンプエアコンを採用。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される